

平成 21年 6月 25日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：平成19年～平成20年

課題番号：19820041

研究課題名（和文） システムの変遷からみた書記史の研究－改新と採用の条件－

研究課題名（英文） A study of writing system from the point of system change;
a condition of innovate and adopt

研究代表者

加藤良徳(KATO YOSHINORI)

静岡英和学院大学・人間社会学部人間社会学科・准教授

研究者番号:20434540

研究成果の概要：

システムの変遷からみた書記史の記述とそのための方法論の開発のための基礎作業を行った。具体的には、システムの変遷に必要な条件、特に簡単に根拠として言及されていながらその内実がいまだに明らかにされていない「書記における『分かりやすさ』と『権威』の問題」について考察を加えた。修士論文以降、歴史的研究を行ってきたので、本研究においては現代を研究の対象として設定した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総計			

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：

書記システム・分かりやすさ・権威

1. 研究開始当初の背景

修士研究以降、歴史的研究として仮名文の書記システムについて考察を行ってきた。しかし、研究分野で当たり前の前提とされている「分かりやすさ」であるとか「権威」ということの内実について、実は何も分かっていないのではないかという疑念があった。本研究では、それらの内実について、少しでも迫りたいと考えていた。

2. 研究の目的

システムの変遷からみた書記史の記述とそのための方法論の開発である。ただし、簡単には取りかかることができない問題であるので、本研究ではそのための基礎作業を行う。具体的には、システムの変遷に必要な条件として根拠として言及されていながらその内実が明らかにされていない「分かりやすさ」と「権威」という言葉について、現代の書記を対象として考察を行う。

3. 研究の方法

システムの変遷を考える上で欠かせない

条件である「分かりやすさ」と「権威」について考察する。平成19年度には、「権威」の問題について、大学生の敬語意識の面から考察を行う。また、平成20年度には、「分かりやすさ」の問題について大学の共同研究で取り組んできた基礎演習をフィールドとして考察を行う。また、初年次教育の問題については、別途e-learningの活用の可能性の面からも考察を行う。

4. 研究成果

研究成果としては、2本の論文、2回の学術発表、3冊の教科書として結実した。本研究のテーマが日本語学の歴史的研究の側面からだけでは解決できないものであったために、他分野の研究者と広く共同研究を行ってきた。その結果、基礎的な研究としてだけでなく、教育への具体的な応用可能性にまで気づくことができたことは大きな成果である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 加藤良徳、現代社会におけるモラルと言語－日本語学的知見を教育にいかす－、平成19年度大学ネットワーク静岡・科学交流フォーラム報告書、1頁-9頁、平成20年、査読無
- ② 加藤良徳・川島美奈子・林智幸、人間社会学科における基礎演習モデルの提案、静岡英和学院大学・静岡英和学院大学短期大学部紀要第7号、259頁-268頁、査読無

[学会発表] (計 2 件)

- ① 加藤良徳、現代社会におけるモラルと言語－日本語学的知見を教育にいかす－、平成19年度大学ネットワーク静岡・科学交流フォーラム、グランシップ 会議室 908、平成20年
- ② 北村雅則、石川美紀子、加藤良徳、棚橋尚子、山口昌也、作文支援システムTEachOtherSの運用と教育的効果の分析、言語処理学会第15回年次大会、鳥取大学、平成21年

[図書] (計 3 件)

- ① 日本名古屋大学日本語研究会、日本表達

力専門塾、台湾・衆文図書、平成20年、276頁

- ② 日本名古屋大学日本語研究会、日本運用力専門塾、台湾・衆文図書、平成20年、371頁
- ③ 名古屋大学日本語研究会GK7、スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳、東京書籍、平成21年、112頁+参考CD-ROMなど

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者